

たたかう労働運動の新たな潮流を!

月刊

交流センター

2008
7

- サミット粉碎 6・29 全国労働者総決起集会
2150人!
- 被爆63周年 8・6-8・9 反戦反核闘争へ

連載

闘う合同・一般労組 第4回

日研総業は仕事をよこせ! 不当解雇を許さない!
一般合同労組・さいたまユニオン





目次

東京・代々木公園に2150人が結集して渋谷へ世界に轟くサミット戒厳体制をはねのけ、スクラムデモ

- 労働者の目 国労の階級的再生へ 1
- サミット粉砕6・29全国労働者総決起集会2150人 2
- アーリン・イノウエさんとCAMSの闘い 6
- 国際労働運動のページ ILWUのメーデー港湾封鎖
世界史を変える職場の闘い 8
- 6・14かながわ労働者団結集会報告 10
- 闘う合同・一般労組 第4回
日研総業は仕事をよこせ！ 不当解雇を許さない！
一般合同労組・さいたまユニオン 12
- やつてられないぜ！ 食糧高騰 14
- ひめじょおん―女性部から
被爆63周年「8・6」にむけて 16
- 動労千葉労働学校で学ぼう！ 17
- 労働ニュース 18
- 過労自殺・日雇い派遣など
国労5・27臨大闘争弾圧刑事裁判 20
- たたかいは進む 22
- 8・6ヒロシマ大行動へ 24
- 「自治労の力で革命やろう」 25
- マンガ 25

新自由主義の攻撃の本丸は国鉄・分割民営化だった。JR発足から21年が経過した今日、規制緩和と労組破壊のさまざまな攻撃、郵政民営化をはじめとする更なる攻撃の激化のなか、青年は「生きさせろ」と叫んで団結を拡大しようとしています。学生は法政大学大弾圧に見られるように、学生の怒りは頂点に達し、サミットへの予防弾圧として38名もの仲間の逮捕攻撃に出てきたのです。学生を先頭に、青年の怒りが団結することになり、心底恐怖し、帝国主義の本性がむきだしになったのです。

帝国主義は延命をかけてサミット強盗会議を開くのです。洞爺湖サミット粉砕闘争は、全世界の労働者階級人民と連帯し、団結して闘われる、歴史を画する闘争です。11月労働者集会が出発点となった国際連帯は、労働組合運動の原則をどこまでも貫き、かつ階級的団結を総括軸に据え、資本と非和解に闘ってきた動労千葉労働運動の勝ち取った地平です。

動労千葉労働運動を徹底的に学び、自らの職場で実践を開始し

労働者の目

国労の階級的再生へ

羽 廣 憲

全国労働組合交流センター
常任運営委員



サミット粉砕6・29闘争

めたとたんに既成労組指導部は反動となり、組合員の闘いを圧殺する体制内労働組合の本性をむきだしにして襲いかかってくるのです。国労内部にもあらゆる体制内指導部の弊害が出てきています。「4者4団体」路線がそうであると同時に中央本部自身がJR資本に屈服し警察権力と一体となつて、5・27臨大闘争弾圧をかけてきたのです。国労共闘破壊の大弾圧でした。裁判闘争は次回で89回の公判になりますが、裁判官交代の更新手続きに入っています。この間、被告の要求を聞こうともしない体制内にどっぷり浸かった弁護団を全員解任し、新たな体制で裁判自体を階級裁判として再出発することが出来ました。階級的労働運動を拒否した妨害物はさげすまざりなくなり、国労の階級的再生に向かって被告、弁護団とそれを支える体制が出来つつあります。

サミット決戦を帝国主義への怒りと階級の団結で粉砕し、全世界の労働者階級と団結し権力を奪取する時が来たのです。

サミット粉砕6・29全国労働者総決起集会2150人 労働者の怒りに火を点けるぞ！ 渋谷実力デモ、世界に轟く

集会基調報告

国鉄千葉動力車労働組合委員長

田中康宏

まず、渋谷駅前を通るデモコース禁止に心の底から怒りの声をあげたい。権力は渋谷駅に入る大通りに何台も装甲車を並べて交通を遮断している。いったいこの弾圧は何なのか。結局彼らは労働者の怒りに火がつくことを恐れて怯えている。だったらやらなくちゃいけないことはただひとつ。もう社会の隅々まで燃え上がるための燃料は山積みです。これに火を点ける、そして団結をつくりあげる。これがわれわれの仕事です。戦闘的なデモを貫徹しよう。

なぜ動労千葉がサミット粉砕の集会を呼びかけたか。

全世界がひとつの怒りの炎に包まれています。ひとつの敵に向かって全世界の労働者が農民が漁民が団結しています。それは新自由主義という敵に対してです。

日本では新自由主義の決定的突破口が20年前の国鉄分割民営化攻撃でした。この結果、全社会に貧困が強制され、戦争が引き起こされた。ワーキングプアとかロスジェネレーションとか、もうこんな言葉は聞きたくない。そういう世の中になった。私たちはこれにクビをかけて闘ってきました。今も国鉄分割民営化を粉砕するため闘っています。だから動労千葉はサミット粉砕の集会を絶対に呼びかけなければいけないという決意を固めたのです。

秋葉原事件と『蟹工船』 ——労働運動復権の情勢

この20年、日本で、世界で労働運動は決定的な後退を強いられてきました。だけど今、労働運動がもう一回団結を取り戻して荒々しく復権するのときを迎えています。秋葉原事件と『蟹工船』の大きなブームの情勢。これはひとつのことです。みんな敵は誰なのか、

団結する仲間はどこにいるのか、どうしたらこんな現実を変えられるのか。必死になってみんなが探して、怒りははちきれんばかりになっている。

マスコミは秋葉原事件について「犯罪予備集団の巣窟と化した派遣会社」と報道しています。冗談ではない。そんな派遣会社をつくったのは誰なのか。若い人の半分以上が一生派遣でしか生きられない社会をつくったのは誰なのか。それをさしおいてこんな言い方は絶対に許せない。マスコミは派遣の現実とか書き始めているがウソです。怒りの圧力を少しづつ抜いていこうとしている。そんなことで抜ける怒りなのか。

核心は何か。人間たる労働者、労働力が商品として扱われている。これが事の本質です。この中で人間の人間の関係、仲間、全部がバラバラにされ、生きることもできなくなっている。これが現実です。あらゆることを金勘定にする。マルクスの言葉です。今はそ

れの本当に極端な形です。労働者が労働者である以上、こんな現実をいつまでもこれから1年、5年、10年と認めていくなんてことは絶対にありえない。昨日まではもしかしたら私たちはおとなしい労働者だったかもしれない。だけど明日からもおとなしいとはかぎらない。そのことを示そう。

もうひとつの事の核心は何なのか。みんな多くの労働者は、抗いがたい力に押し流されていくと感じています。つまり敵が見えていない。いったい誰が敵なのか。それが見えなくなっている。

見えなくさせたのは誰か。体制内で労使協調で屈服している労働組合の腐りきった姿です。この連中が怒りの声を抑えこみ、敵は違うんだ、我慢しようと言っている。もうこんなのはこりごりだ。もうたくさんだ。

それがあの秋葉原事件になっている。彼には、ここに仲間がいる、敵はあいつらだという声はまだ伝わっていなかった。これは私たち



基調報告する動労千葉田中委員長

の責任ではないですか。まだわれわれの声が小さい。まだこれだけの結集しかない。もうこれではダメです。

ここで一步突き抜ける、怒りの声を全部結集する。その出発点に今日の集会をしよう。

実は、『蟹工船』を書いた小林多喜二が1933年、築地署で拷問を受けて虐殺されたときに、私の祖父は抗議に行つて逮捕されています。だから『蟹工船』ブームの情勢を今度こそこの社会を根本から変革する勝利に結びつけないといけないと思いは人一倍大きい。『蟹工船』を130万人が読んでいます。この人たちはみんな団結する相手が見つかったなら立ち上がる仲間

です。

それと法政大学の弾圧問題です。法政の学生は私たちにどういう道を進むべきかを鮮明に示してくれました。逮捕されても誰も屈服しない。もつと団結を固めて前に進んでいく。なぜか。腹の底からの怒りを持っているからです。それと労働者は絶対に立ち上がるという確信を持っているからです。

ならば私たちはこの学生たちの英雄的な闘いと団結して闘い、前に進めよう。

全世界の労働者と共に巨大な前進を勝ちとっている

もう1点提起したい。われわれの闘いは全世界の労働者とながつている。われわれの闘いが巨大な前進を勝ちとっていることを絶対に確信しよう。

韓国・民主労総の仲間たちは今どんな闘いをしているのか。反動イ・ミョンバク政権を打倒しようとして100万人の労働者がソウルの街を埋め尽くした。

ソウル本部の仲間たちは昨日、激しく権力・機動隊と衝突をして

大統領府に攻め込んでいます。この間、多くの討論をしてきました。韓国の労働運動が立ち遅れているというメールが来ました。指導勢力がいけないという声が届いています。それに対して「あなた方がいるじゃないか。ソウル本部の戦闘的なあなた方が指導部なんだ」と討論をしています。必ず韓国の労働運動は大きな飛躍をとげて、全世界の労働者の先頭に立つて闘う部隊になる。それとわれわれは直接固い連帯でつながっている。私たちの闘いとひとつだということです。

それと米港湾倉庫労働組合のすばらしいイラク戦争に反対する、29もの港を完璧に停めたストライキ。あの仲間たちとこの5年間肩を組みインターナショナルを歌い、こういう闘いを全世界に巻き起こそうと討論をし激論を交わし、共に方針を決めてきた。われわれは巨大な前進を勝ちとっています。

ならば僕らの仕事はひとつです。日本の労働者の怒りにどうやって火を点けるのか。世界中は怒りの炎で焼き尽くされようとしています。食料暴動、燃料ストが

起き、ヨーロッパでもアジアでもアフリカでも中東でも、全世界にストライキの津波が襲っています。資本主義体制は末期症状です。労働者が生きていくこともできない。生きているための怒りの声を押しとどめることはできない。

さてサミットです。今回のサミットは1975年の第1回ランブイエサミット以来の重みを持つということをマスコミも書き始めました。そこまで資本主義の危機が深まっているということです。今こそ闘う労働組合が時代の最前線に躍り出なければなりません。

労働者の団結した力だけが社会を動かす唯一の力である。これは絶対的な歴史の真実です。ここに結集されたひとりひとりが決定的な力を持っている。持っているからこそ団結したときには世の中を変えられる。今度のサミット決戦に求められていることです。破滅的な結末を強制されていいのかわれわれの未来はわれわれ自身掌握している。サミットが言っていることは全部ペテンだ。何が環境問題だ。何が恐慌対策だ。初めからサギだとわかっていて低所得者

なるものにサブプライムローンを貸し付けたのは一体誰なんだ。やつらじゃないか。

体制内幹部を打ち破り、闘う 団結をつくりあげる闘いを

最後にわれわれは何をなすべきなのかということ。

この20年から30年余りに、何が問題だったのか。それは社会の最も先頭にいなければいけないはずの労働組合の幹部たちが全部資本に屈服し、政府に屈服して、労働者の怒りを押し込める、労使協動的な、体制内の労働組合に腐っていったということ。この一点に尽きます。

だから職場からひとりでもいい、腐った労働組合の幹部たちを打ち破って闘う団結を作りあげるための闘いを始めることです。これが最大の核心課題です。

この課題は実は一番困難な課題です。その道を絶対にはるまっす、どんな弾圧を受けようが進もう。多くの仲間が既成の組合から統制処分や除名処分になっています。ただでこんなことを恐れず、仲間たちは、ここにかけきって闘いを

進めています。動労千葉もそうやって闘いを進めてきました。

もう1点。怒りを語るうということ。ひとりひとりが一体何に怒っているのかを絶対にはっきりさせてほしい。自分自身の怒りを職場で地域でストリートに許せないんだと明らかにすることが間違いなく響く時代が来たのです。

大事なことは自分自身の存在と闘いを絶対に低めてはならないということ。こうした闘いをやり抜いた時に新しい闘いを絶対につくりあげることが出来ます。そうした決意を込め、7月の洞爺湖サミットを絶対に粉砕しよう。

何よりも11月労働者集会に最低1万人の労働者たちの結集を勝ちとりましょう。ここには闘いをひっさげて韓国やアメリカの仲間たちが来ます。そのときにわれわれの闘いもここまで前進したということを言わないで仲間たちを迎えることは絶対にできません。

サミットを粉砕しましょう！労働者は団結して立ち上がろう！そしてこの闘いに勝利して11月労働者集会に1万人の結集を勝ちとりましょう！

集会の決意表明より

●大阪で闘う自治体労働者

今大阪でも火が点き始めています。「橋下はヒトラーだ」という声が職場に渦巻いています。6月20日に賃金平均15%カット、生きられないというこの攻撃に徹夜の団体交渉が行われました。そこで橋下は「公務員は甘えている。民間では失業になったら路頭に迷って、サービス残業でも当たり前だ。そういう現実わかっているのか」と。また、臨時職員が年度末には350人解雇されるということが起きようとしています。

橋下のやり方を経団連の御手洗と自民党の福田が絶賛し、全国に広げようとしています。しかし再建は絶対に出来ません。1100兆円を超える借金の返済は不可能です。資本主義そのものが終わっているということ。だから労働者は団結してサミット絶対反対の行動を示そうということ。

私は自治労の組合員です。この情勢に対してストライキしかないということ。職場でも組合でも訴

えてきました。

これに対して組合の本部は、世論が敵に回る、激突したら労働条件が守れなくなると言って弾圧をしてくれました。こういう組合のあり方が職場にあきらめ、屈服、分断をもたらしているのです。

ストライキは労働者に力があることを示す闘いです。誰が職場を回しているのか。そんなに公務員が仕事をしていないというんだ。たら橋下がひとりやってみる、一体誰が仕事をやっているのかを示す。それがストライキの闘いです。

橋下はついに自衛隊への研修に職員を行かせるということまで言い出しました。彼の狙いは本当に軍隊のような公務員にして刃向かうやつは全部クビにしていくということ。

ついに労働者の怒りの決起が始まっています。3月の朝礼での女性職員の決起に続いて6月、第2弾の朝礼での決起が起きました。そして6月20日には、府労働組合が空前の7千名の結集です。組合本部の動員目標5千が7千にふくれあがる。現場の怒りの結集です。「俺たちは奴隷じゃないんだ」「私たちと同じ給料で子ども

を3人育ててみる」こういう怒りの声をもって7千人が集まったんです。非和解的な激突が6月20日をもって始まったのです。

集会に参加した組合の仲間からのメールです。「あんなやつにやりたい放題されているのはもう我慢ならない。でもあんなやつのおかげで私たちの団結は強まった。だから断固闘おう」。これが勝利です。橋下の攻撃の核心は、分断して団結を破壊することです。しかし絶対反対の闘いによって団結は強化されています。絶対反対の闘いが今度は団結を拡大します。

私も今まで体制内の労働運動の中にくっついていました。しかし今日をもって動労千葉や法政大学の全学連の仲間、ILWU、労働者の仲間と固く団結して今日の行動、サミット絶対反対の闘いを打ち抜きたいと思います。

●新仙台台局で闘う全連労働者

今日は新仙台の仲間4人で来ました。この4人の団結を固めるためにサミット粉砕の渋谷デモにたちたい。デモやってもう一回団結を固める。これは法政大学の闘い

が示している。労働者だってそういう闘いをやっていきたい。

新仙台で、たった1カ月働いて雇い止めにあつた鈴木君の雇い止め撤回の闘いを自分たちがクビをかけて闘うかどうかが問われたんですけど、やり抜いてきました。

彼は1カ月で自分が雇い止めになるといふときになんとというピラを書いたか。「人が商品のように簡単に使い捨てにされるのが存在を否定され生きていくことを否定されるということがどんなに辛いことなのか。捨てられることに怯えながら働くことの悲しさを知った、この悲しさがどれだけそのまま世の中当たり前に回っているのか。もうそんな悲しい思いはしたくないんだ。俺といっしょに団結して闘おう」

この非正規労働者と団結をつくりだして闘わない限り、この腐りきった世の中を変えることは出来ない。このことを実際に4月30日、自分が職場の休暇を叩きつける、ストライキなんですけど、実力で仕事をしない、そういう闘いをやって初めてわかった。彼の怒りは秋葉原事件の怒りと全く同じです。そして世界の労働者の怒りと

全く同じです。もうこんな社会では生きられない。ぶつ倒すしかない。彼はそう呼びかけているんですよ。団結して闘う、立ち上がろう、新仙台に革命が起きたという状況をつくってやろう。こういう事態が本当に生まれました。

今職場は労働者が黙って当局から言われたとおり働いているかざりは何もわかりません。だけでもふざけるな、こんなの許せねえんだと立ち上がった瞬間に職場は階級対立のまっただ中にあるんだということが、むき出しの階級社会だということがわかるんですよ。

もうひとつ言いたいのは体制内労働運動の指導部です。この連中は、「彼の雇い止めはクビじゃない、雇い止め満了だろう」と。ふざけるんじゃない。1カ月しか働かない労働者をクビにしてそれでいいんだという労働組合がどこにあるんだよ。そんな労働組合の委員長がこの前札幌で何を言ったのか。「労使一体で事業の発展を阻害する、全ての阻害要因を排除する」。ふざけるなって。

俺たちは動労千葉のように闘いたい。動労千葉のように団結して本当にこの世の中を変えたい。今

日はそういう思いでいっぱいです。デモにがんがん行きましょ。

●雇い止めと闘う青年労働者

僕が言いたいのは、最終日に泣き寝入りしないでストライキで闘ってその後門前闘争を闘い続けていることによって、この闘いに完全に勝利したということです。

敵は完全に墓穴を掘った。労働者とはどういう存在なのか。僕一人がみんなのために声を上げた。そして周りの労働者は僕のために「俺も許せねえよ、こんな状況で働けるか」と言って「処分なんか関係ねえ、銭金じゃねえんだ」と言ってストライキに入った。これ

こそが労働者の魂だ。ひとりのためにストライキをする。これが労働者の魂じゃないか。僕は、新しい労働組合をつくるとは言いませんよ。僕たちはJ.P.労組で勝負します。この敵の道具であるJ.P.労組に革命家集団をつくりあげていくんだ。このJ.P.労組を革命の組織に変えることで郵便局を労働者の管理に変えるんだ。そのことを決意します。一緒に闘いましょう。

アーリン・イノウエさんと CAMS の闘い



教育労働者を先頭に8・6広島-8・9長崎反戦反核闘争へ

高校生たちによる募兵阻止行動

兵」によってなりたっています。米軍のリクルーターが堂々と学校に入り込み、移民労働者、貧困家庭の生徒たちを狙って大学の奨学金や健康保険を餌に入隊させ、イラクに送り込んでいるのです。

ラティーノの子どもたちが大半を占める学校に赴任し、この現実を目の当たりにしたイノウエさんは、CAMS（校内の軍事化に反対する連合）をたちあげます。ロサンゼルスの50の高校で、教育労働者、父母、生徒による地域ぐるみの「教え子を戦場に送るな」の闘いをつくりだしてきました。

この闘いは、左翼的なロサンゼルス統一教組（UTLA）の支援を受けて、次第に全国に拡大し、米帝の戦争体制を揺るがす力に成長しつつあります。

「イラク戦争即中止」を掲げて西海岸の全港湾を封鎖したILWUのメーデーストライキとならぶ、教育労働者の職場生産点からの戦争協力拒否闘争です。

●イノウエさんとの出会い、そして国際連帯の発展

私たちとイノウエさんの出会いは、昨年7月に、三浦半島教務部

会の佐藤江都子会員がNEA（全米教育協会）「平和と正義」部会の招聘を受けて訪米したことから始まりました。大会会場で佐藤会員が根津さんへの解雇攻撃に反対する署名を集めていると、ただちに共感しその場で同僚たちから署名を集めてくれたのがイノウエさんでした。

イノウエさんらは、「君が代」解雇をさせない会の都庁前行動と同日に日本領事館への抗議行動に取り組んだり、被処分者への連帯を表明するUTLA決議をあげるなど、ただちに行動を開始してくれました。

昨年の11・4労働者集会にイノウエさんとCAMS副代表のソテアさんの参加が実現し、私たちは強い連帯の絆で結ばれました。集会前日に持たれた教育労働者の国際連帯集会は、「君が代」不起立闘争と軍募兵官追いつし闘争という日米の「教え子を戦場に送らない」闘いが合流する歴史的集会となりました。

アメリカのNCLB法（おちこぼれ防止法）は、一斉テストを義務付け、生徒の点数で予算格差を付け、成績が悪い学校は廃校、教

米軍の高校での募兵活動に反対して闘っている教育労働者、アー

リン・イノウエさんが、8・6

広島-8・9長崎反戦反核闘争に参加します。

イラク戦争は、「貧困による徴



アーリーン・イノウエさん

アメリカの教育労働者アーリーン・イノウエさん（UTLA＝ロサンゼルス統一教員組合）たちはイラク戦争の激化の中で、CAMS（校内の軍国主義に反対する連合）を立ち上げました。これは高校内で公然とイラク戦争の人員補給を行う軍のリクルーター（募兵官）を追い出すたたかいです。軍隊は貧困層の高校・高校生をターゲットにし、ウソ八百（軍に行くと大学に行けるなど）を並べ立てて、実際に学校の中に入り込んできて軍隊へ勧誘を行っていきます。これに対してアーリーン・イノウエさんたちは、生徒はもちろん保護者にも闘争への参加を呼びかけ、募兵官事務所を一日閉鎖に追い込み、募兵官の校内立ち入り制限を勝ちとりました。

師はクビというシステムです。国の補助金とひきかえに、生徒の個人情報や軍に提供させています。貧困と格差を拡大し、子どもたちを戦争に駆り出す新自由主義教育改革は、まさに日本の教育改革の行き先を示すものです。

●力強く前進するランク・アンド・ファイル運動

この運動がロサンゼルス全域に広がったのは、CAMSの闘いの発展の中で、2005年3月のUTLA執行部選挙で左派が地滑りの勝利をかちとり、4万8千のUTLAが闘う組合に転換したからです。ランク・アンド・ファイル運動でもあるCAMSの闘いは、不起立闘争の進むべき道をさし示してくれています。

イノウエさんとの交流を通じて、労働者には戦争を止める力がある。団結の力が世界を変える！という確信を持つことができました。「私たちがすすごいかも！」という自分自身と仲間への信頼がなによりも大切なことを、イノウエさんから学びました。

イノウエさんたちは、帰国後、訪日報告集会を開催し、日教組を

動かすためにUTLAの森越委員長宛の書簡の送付や、都教委への抗議の組織化に全力で取り組んでくれました。根津さん解雇阻止の知らせに「皆さんの勝利は私たちの勝利」と喜び、解雇させない闘いを「民衆の闘いを鼓舞し、教師という存在が真にあるべき姿の内容を提示する闘い」と高く評価してくれています。

UTLA被処分者への連帯決議は、CFT（カリフォルニア州教組）決議となり、AFT（アメリカ教員連盟）全国大会にも提案されようとしています。UTLAは、6月8日には、シュワルツネットガー知事の教育予算削減に反対して早朝1時間ストをうちぬくなど、ますます意気軒昂と闘っています。

教労部会は、8月5日に教育労働者交流集会を開催して、この半年間のお互いの激闘を交流し、国際連帯の絆をさらにうち固め、秋の闘いに臨みたいと考えています。すべての労働者の皆さん、とりわけ青年労働者の皆さんの被爆63周年のヒロシマ・ナガサキ反戦反核闘争への参加を訴えます。

（教育労働者部会）

ILWUのメーデー港湾封鎖 世界史を変える職場の闘い

アメリカ

論説 なぜ、ILWUは世界史的なメーデー港湾封鎖が実現できたか

(国際労働運動研究会)

侵略国・被侵略国の労働者が団結してスト

5月1日、世界の階級闘争の歴史が変わった。国境と戦争による分断を越えた団結が実現したのだ。第一次大戦に反対して闘ったロシアとドイツの労働者も、同時連帯ストまでは出来なかった。ベトナム戦争の時もそうだ。

しかし今回、ついにアメリカの労働者が戦場的な職場・生産点を止める闘いに決起した。しかも、

真正面からイラク戦争即時停止を求めて実力行使した。そして、被侵略国イラクの労働者が感動的な連帯行動で応えた。イラクの港湾労組が、ウム・カスル港（イラクの石油輸出の8割以上を扱い、軍需物資もほとんどがここを通る）とコル・アズバイル港で1時間ストを貫徹したのだ。世界史的なブレークスルーである。

生産点で労働者階級の（筋力）を行使

（全世界で千万人の巨大なイラク反戦デモをしたが、戦争を止めることはできなかった。しかし、職場で労働者が実力行使すれば、戦争継続は不可能になる。）―これが、アメリカ西海岸の港湾労働者の組合、ILWU（国際港湾倉庫労組）が今年2月にメーデー港湾封鎖を決定した決議の内容だ。この決議案は、ILWUローカル10（第10支部）のジャック・ヘイマン執行委員が書き、同ローカルの決定で、ILWU全体の港湾部に提出され、激論の末に代議

員の圧倒的多数を獲得して可決された。

しかし、圧倒的多数が支持したからといって、メーデー港湾封鎖が必ず実現できるといえるほど事態は甘いものではない。アメリカ西海岸の港湾からは、イラク・アフガニスタン向けの軍需物資の大部分が運び出されている。また、生産拠点の海外移転を加速度的に進めてきたアメリカ経済にとって、アジア太平洋地域からの輸入物資がたとえ一時的にでも途絶することは、重大な経済危機をもたらす。

西海岸の港湾は、アメリカ帝国主義の戦場的な弱点なのだ。だから、支配階級は激甚に反応せざるをえない。翻訳①「割愛」の中にあるように、港湾の経営者団体、PMA（太平洋海事協会）は、「5月1日の港湾封鎖には、あらゆる法的手段を使う」という恫喝を加えてきた。「法的手段」とは、一般的な損害賠償訴訟のようなものだけでなく、奴隷労働法と言われるタフトハートレー法の発動で

あり、また愛国者法を始めとする9・11以後の超強権的な治安法の発動だ。労働組合幹部の追放、前前面的な組合の破壊・改造、軍隊の導入まで含むものなのだ。

すでに02年に、ILWUの労働協約更改闘争に対して、ブッシュ政権は、「港湾での争議はテロリストを利する」と恫喝し、タフトハートレー法を発動している。そして、ILWU本部はその恫喝に屈服し、争議禁止の中で労働協約を締結してしまった。そしてその後「反テロ」の名のもとで行われている港湾治安対策に積極的に協力するまでに屈服を深めている。

したがって、今回のメーデー港湾封鎖は、資本、国家権力と不屈に闘い、なおかつILWU本部の屈服を乗り越えていくランク・アランド・ファイル（現場組合員）の独自の指導部の形成によってはじめて貫徹することができたのだ。ILWUローカル10、34を軸とした階級的な労働運動は、港湾労働者メーデー組織化委員会をラン

ク・アンド・ファイルの指導部として08メーデーを組織化していったのだ。

これによってこそ、きわめて大きなアメリカ西海岸を一つの例外もなく全て制圧することができたのだ。

11月日比谷野音の国際的団結

ILWUローカル10、34は、動労千葉と港合同、関生が呼びかける11月集会在が国際連帯集会となった03年以来、共に闘いを担ってきた仲間だ。

それは、言葉の上の連帯ではなくて、03年の動労千葉の戦時下の春闘スト、そしてオークランド港での反戦ビケに対する機動隊の襲撃との対決という、それぞれの職場での闘いを出発点にして始まった。また、幹部間の儀礼的な連帯ではなくて、ランク・アンド・ファイルの交流と討論を通じて、固い階級的団結を作ってきた。

今回の港湾労働者メーデー組織化委員会の共同議長になったジャック・ヘイマン、クラレンス・トーマス両執行委員は、11月日比谷野音の集会を共に闘い、労働運動の路線についての討論を動労千

葉と一緒に積み上げてきた。

昨年10月には、ILWUローカル10、ローカル34の主催、動労千葉、イギリスRMT（鉄道・海運・運輸労組）などの参加でサンフランシスコで国際労組反戦会議が開かれた。そこで、それぞれの職場・生産点で闘って戦争を止めることが決定された。

今年2月のILWU港湾部会に提出されたローカル10のメーデー港湾封鎖決議案は、まさにこの07年10月の国際労組反戦会議の討論・決定事項の実践であった。2003年以来、共に作り上げてきたものが結実したのだ。

職場で闘う、労働者仲間を信頼する

資本の命じるままに労働者は働かねばならないと見えているのは、労働者が分断されているからにすぎない。労働者が働いているから職場は動いているのであり、労働者が団結すれば、職場を支配し、社会の主人になることができる。

真正面から真剣な議論をし、闘うなかで団結を作っていくならば、労働者は正しく判断し、仲間

を裏切らず闘いを貫徹する。仲間を信頼し、団結を総括軸として闘う。―遠く海を隔てた所にありながら、ILWUと動労千葉の経験は驚くほど同じだった。この交流・討論の中から、階級的な労働運動の路線が深められていった。

11月集会の闘う労働運動の全国ネットワークを作る潮流運動は、ILWUローカル10が、02年の本部の屈服を乗り越えるための力となったのだ。

メーデー復活 移民労働者との団結

メーデーの起源となったのは1886年のヘイマーケット事件だが、それへの大弾圧とその後の労組幹部の屈服のなかで、アメリカでは、メーデーがタブーとされるようになった。

そのためこれまでは、メーデー参加者は、極々少数にとどまってきた。アメリカで最も戦闘的な組合であるILWUでさえ、メーデーではなく、9月の第1月曜日の「レーバーデー」を労働者の日としてきた。

06年の移民労働者のメーデーによって、初めてアメリカで大規模

なメーデーが復活した。だが、ILWUを含めて主な労働組合は組合としては動かなかった。ローカル10は、メーデーに参加したが。07年にもローカル10は西海岸全港湾の港湾封鎖をめざしたが、ILWU全体を動かすには至らなかった。

08年、ILWU全体が動き、そして他の労組が動くようになり、初めてアメリカの労働組合運動と中南米系を始めとする移民労働者の運動が一体となってメーデーを闘えたのだ。

ナショナルセンター、AFL-CIOの州連盟さえ、今年も動いた。ワシントン州連盟は支持決議を上げるとともに、シアトル港のILWU集会に参加した。遠く、バーモント州、サウスカロライナ州の連盟もILWUを支持した。

AFT（アメリカ教員連盟）の州組織、CFT（カリフォルニア州教員連盟）も4月の全州大会で、ILWUメーデー決起支持の決議をあげた。【同じ大会で、根津さんを始めとする日本の教育労働者の闘いを支持し、「日の丸・君が代」処分に対抗する決議をあげている。】

サミット粉砕し労働者は団結しよう

6・14かながわ労働者団結集会報告

6月14日、横浜で「洞爺湖サミット粉砕！ かながわ労働者団結集会」が開かれました。この集会は、神奈川で唯一、サミット粉砕を真っ向から掲げてかちとられました。集会には、神奈川県下から、

敗北宣言だ。みんな（自分の人生で最高のテンション。これから起訴される闘いをやる）と盛り上がっている。ついに文連の仲間も立ち上がった。当局に公認されなかつた方がいい。2年間の闘いの成果が出るのはこれからだ。団結があれば何でも出来る」と熱烈に訴えました。このアピールを受けて、緊急会場カンパが8万1085円集まりました。さらに、神奈川交

モールを通るデモ行進を行い、圧倒的注目を集めました。この闘いは、神奈川の労働運動を根底から変えていく闘いの第一歩です。たった80名で（！）これだけの闘いが出来る！ この80名が核となつて職場から団結を拡大し、世の中を変える革命をやるぞ！

西田代表の基調報告(要旨)

隣の仲間との壁をぶちこわそう！ 法大に続こう！



まず冒頭、弾圧に対して最先頭で闘う法政大学の仲間から特別報告を受けました。彼は、「38名の逮捕された仲間、ものすごく元気。この弾圧は、資本主義の側の

を拒否し、懲戒解雇の脅しに屈せず闘う青年労働者、医療現場で働く青年労働者、三浦半島地区教組の労働者、全通労働者、自治労の非正規労働者が次々と立って、闘いの報告・決意が述べられました。代議員選挙に立候補し、選挙戦の都合で参加できなかった国労の仲間からはメッセージが寄せられました。

集会後、会場から伊勢佐木町

全世界で新自由主義に対する反撃が始まっている。世界は革命情勢だ。5・1で米ILWUとイラク港湾労働者が連帯した。韓国では、イ・ミョンバク政権打倒の100万人のデモだ。日本でも動労千葉の春闘スト、法大の闘い、根津さんの闘い、全通中郵移転阻止の闘い。全世界の労働者とひとつに繋がる闘いが起きている。資本主義の時代は完全に終わりを

告げている。最後の〈延命策〉である新自由主義攻撃を粉砕し、階級的労働運動の白熱的実践をやる。新自由主義の団結破壊の攻撃に対し、階級的団結を勝ち取る闘いこそが、資本主義の最後の延命を断ち切る道だ。体制内労働運動は完全に終わった。「民営化」を全面的に受け入れ推進しているではないか。今や曖昧なものは一切通用しない。隣の仲間との壁をぶちこわし、曖昧さのない討論を始めよう。プロレタリア革命は何か特別のことではなく、極限的に腐敗し行き詰まった資本主義をぶつ倒すために、職場の仲間と団結し闘うということ。労働者の根底的階級性を信頼しよう。法大生は団結を求め、全てをかけて闘っている。(法大に続け！)を合言葉にしよう。世界の労働者にひけをとらない闘いが、この神奈川でも起きている。自分の闘いが世界とつながっている、という自信と確信を持ってサミット粉砕闘争を闘

い、6・29代々木に大結集しよう。隣の仲間を連れて参加しよう。

発言

金属労働者―異動命令絶対拒否で闘う！

不当な異動命令を拒否して闘い抜いている。正直言って迷った時もあったが、仲間がいたので闘い続けてこられたと思う。会社の人事権とは何か？ 労働者はモノではない。人事評価は〈当たり前〉ではない。絶対に反対。連日の闘いの中で、当局の言い方はグラツいていく。一人の決起が会社を揺るがしている。でもここまで連日の闘いが出来るのも仲間との持続



的な討論のおかげ。(※異動命令を拒否して以来、連日門前朝ビラを休まず続けている：筆者註)街頭での訴えに共感してくれる声が多い。「不当な異動に絶対反対」に共鳴する声が多い。自分に対する攻撃も、法大の闘いも韓国の闘いも、個別の問題ではなく、社会のあり方がおかしいということだ。

医療労働者―動労千葉のような団結が欲しい！

一方的な就業規則の改定と退職金カットの攻撃に対して、白紙撤回を求めて闘った。当局との団交で「責任とれるのか」と言われ反論できず、くやしかった。でも組合旗を作り、動労千葉の物販に取り組んでいる。この取り組みは、大きく広がっており、職場のみならず動労千葉のような団結を欲している。確信を持った。動労千葉みたいな闘いが必要だ。

全通労働者―民営化郵政は破綻！

J・P労働本部は今や完全に産業報国会。議案書の中身は当局と同

じ。東京中郵が銀座局へ移転となり、車が足りない等、職場は大変な事態になっている。民営化郵政は完全に破綻。仙台では雇い止めに対する闘い。堂々と闘い続けよう。

教育労働者―職場はもう限界 執行部に挑戦！

世界は革命情勢。このことに確信を持つ。新自由主義は人間社会を破壊している。職場では人事評価と査定昇給、そして超勤。午後9時過ぎまで残って仕事。これが〈普通〉になっている。これを組合執行部は「東京はもつとひどい」と言ってゴマカしている。人事評価にせよ査定給にせよ、本部は当局による制度設計に参画。労働者に対する差別・分断攻撃なのに、本部は「全員に平等に回ってくるからよい」とウソをついている。そして、教員免許更新制の攻撃。先日、職場で話をしていたら、「免許更新で、全員が受けなければいいじゃん」と誰かが言っていた。あ、なるほど、と思った。三教組大会で3本の修正案が全部通った。私たちの立候補にも昨年

を上回る得票。手応えある。私自身は大会当日、体育祭だったが断固年休をとって大会に参加した。これ自体が闘い。仲間にきちんと説明した。最後は「行って来い」と言われた。「日の丸・君が代」不起立闘争こそ、新自由主義との闘いの最前線。自分の中にある〈体制内的あり方〉をぶちこわして団結をつくりたい。

自治体労働者―正規と非正規の分断を打ち破ろう！

神奈川の労働者の闘いはすごいと感じた。私は、月収14万円、雇用は1年更新。公務員ワーキングプア、これは自分のことだと感じていた。いつ切られるかわからない。病気で休めない。非正規公務員はますます増えている。当局は、非正規を導入し、全体の賃下げをもくろむ。正規職員は減員と労働強化の下にある。まさに正規と非正規の分断。非正規職の私たちがいなければ職場は回らない。非正規職の正規職員化を要求するのが正しい。これを正規職員の要求としてほしい。あらゆる分断を打ち砕こう。

日研総業は仕事をよこせ！ 不当解雇を許さない！

一般合同労組・さいたまユニオン

「日研総業は、オレに仕事をよこせ！」

「秋葉原事件のKの恨みはオレが晴らす！」

6月13日（金）昼、東京都大田区西蒲田7丁目にある大手人材派遣会社・日研総業本社に、青年労働者が怒りをたたきつけた。日研総業は、3月25日をもって私たちの組合の仲間であるOさん（35歳）から仕事もアパートも奪い路頭に放り出した。絶対に許せない。

5日前には「秋葉原事件」が起きた。同じ日研総業から静岡県裾野市にあるトヨタ系列の関東自動車工業に派遣されていた青年労働者K（25歳）が、17人の労働者、学生を殺傷した。資本の都合に合わせて労働者を使い捨てにする派遣労働が、青年の身も心もズタズタにしている。

OさんもKと同じように、製品を目で点検する、単調だが集中力がある作業をやってきた。秋葉原事件は、Oさんには他人事ではない。もともとこの日に予定していた本社前闘争だったが、「オレだっ

て、さいたまユニオンに出会っていなかったら……」の思いが、この日の闘いに強く彼を駆り立てた。マスコミは、Kの家庭環境や本人の責任の問題にし「身勝手な犯罪」と騒いでいる。洞爺湖サミットを控えて、社会問題化し怒りを向けられることに政府・権力が恐怖している。冗談ではない。K本人に一切責任はない。派遣労働を製造業に解禁したのは小泉だ。「労働者の9割は非正規雇用にする」といったのは誰だ！ 小泉・安倍・福田、奥田・御手洗にこそ、すべての責任がある。こいつらと日研総業、関東自動車工業、トヨタ資本が、秋葉原事件を生み出したのだ。

派遣先は労働者を低賃金でこき使い都合よく使い捨てにでき、派遣元は合法的にピンハネして儲ける労働者派遣。派遣労働そのものを撤廃しなくてはならない。

慌てふためく日研総業本社

昼休み。日研総業本社がある日

研第一ビルに入入りする労働者が、ビラをどんどん受け取っている。周辺のビルで働く人たちも、住人も、近寄って手を差し出す。法務室主任の大島康永が、慌てふためいて3回も4回も出たり入ったりを繰り返す。大島は、団体交渉の席で、Oさんに向かって「あなたはスキルがない。（仕事をすれば）能力があると思ってるんですか？」と、暴言を吐いた奴だ。会社は、労働組合を嫌悪して退職を強要し雇用契約を更新しなかったことを隠すために、「Oさんにスキルがないことが仕事を紹介できない理由だ」と言い続けている。

ふざけるな！「そんなにスキルが大事なら、求人広告に『経験不問』なんて書くな！」「大島！何とか言え！」と、Oさんがひどき声を大きくして叫ぶ。これまでもちゃんと仕事をしてきたではないか。労働者のせいにしてクビにすることなど許さない。

この日は、警察官が2人、自転車やってきた。大島が呼んだのか！ 私たちは、怒りを倍化させ

て本社前闘争をやりぬき、JR蒲田駅西口に移動して情宣を継続。労働者、市民に支援を訴えた。

深夜に車の中で3時間も退職強要

Oさんは、昨年の6月以来、大手人材派遣会社・日研総業からキヤノン電子美里工場（埼玉県三里町）に派遣され、働いてきた。9月には雇用契約が更新され、本年3月も雇用が継続されるものと期待してまじめに働いてきた。

ところが年が明けるや、いきなり「もう仕事はありません」と言ってきた。そして、深夜3時間近くも車の中で退職強要をしてきた。常駐管理者の村松が、工場での仕事を終えてバスを待っていたOさんを車の中に引き入れ、「会社の上の方から言われて、ここに退職届（用紙）を持ってきている」と言って、退職届を出せと強要してきたのだ。日研総業は、こうやって「自己都合退職」にみせかけて労働者をクビにしてきたのだ。

〇さんは以前にも同様のやり方で退職届に判子を押させられて仕事を奪われた経験があった。しかし今はさいたまユニオンの組合員だ。怒りをもって、退職の意思はないことを突きつけた。すると村松は、「組合に相談すると、派遣会社は横のつながりが広いから、次の就職に支障をきたす」と脅し、「組合員は何人いるのか」と情報提供まで要求してきた。

こうした事実について、日研総業は、「退職強要はしていない。不当労働行為もしていない」と開き直っている。

「リラックスして話ができる場所だと考えて、車の中にした。」退職に関すること以外にも色々な話をしたから「退職強要ではない」などという理屈がどこの世界で通用すると思っているのだ。会社車の車の中で上司と二人きりになつて、どうして「リラックス」できるというのだ。「色々な話」をしてからめとるのは常套手段だ。村松が言ったこと、やったことは不当労働行為でなくて何なのだ。絶対に責任を取らせてやる。

そもそも、日研総業が〇さんに退職を迫った時期は、雇用契約が

まだ2ヶ月も残っていた。組合が本社まで抗議に行つて、3月24日までの雇用の継続を会社が認めた。それを、「今回は雇用契約満期による通常の雇用契約終了であつて、何も問題はない。したがつて、〇さんに次の仕事をあつせんする義務はない」と開き直っている。

仕事をよこさないなら権力をよこせ！

何よりも許せないのは、その労働者を徹底的に見下した態度だ。

日研総業は、約10万人の派遣労働者を雇用する人材派遣業界では最古参にして最大手の企業だ。労働者を使い捨てにする派遣労働で、労働者からピンハネをしてあくどく儲けてきた企業だ。それなのに、青年に仕事を世話して社会に大きな貢献をしている立派な企業だという顔をしている。

〇さんをキヤノンに派遣して儲けてきたくせに、クビにするときは「スキルがないから」とは、ふざけている。

「あなたにはスキルがない。自分に（仕事をする）能力があると

思っているのか」とは、なんという傲慢さ。労働者の自信も誇りも希望も何もかも奪い去り、ぼろぼろにする。これが、労働者の生き血をすすする資本の姿だ。

「スキル」が何だ。「能力」が何だというのだ。資本家の世の中であるこの社会（資本主義社会）を労働者が支えている。だから、労働者が働いて生きていくことに資本が責任をとるのは当然だ。仕事をよこさないなら権力をよこせ！「スキル」も「能力」も関係ない。

資本主義に明日はない！ 階級的団結で革命を！

働き始めてから何年間も昼間に労働したことがない夜勤専門の青年が普通にいる。ラインを止めないで黙々と動くロボットになることだけを要求され、働く仲間との

団結も人間性もことごとく奪われる。社会保険など将来の保障も展望も何もない。そしていつ雇止めになるかわからない恐怖。秋葉原事件の青年Kは、6月末で200人の派遣労働者を50人に削減するという大量クビ切り攻撃にさらされていた。こうしてトヨタ

が2兆円の経常利益を上げる一方で、2000万人のワーキングプアが生み出されている。

Kにとっては、日研総業や関東自動車工業、トヨタなどの個別資本は問題ではなかった。彼を絶望の淵にまで叩き落したこの世の中そのものに復讐しようとしたのだ。この社会そのものを根本からひっくり返す、労働者による革命によってしか解決しないということだ。見ろ！支配階級は、社会を支える次の世代が崩壊している現実を突きつけられても、どうすることもできない。もう、資本主義に明日はない。労働者には資本に復讐する権利がある。その武器は階級的団結以外にない。

秋葉原のすぐ近くの法政大学では、38人不当逮捕（2年間で83人の逮捕）の弾圧を跳ね返してガンガン闘いが進んでいる。サミット厳戒体制・治安弾圧をむしろ好機として、全学連の法大闘争が闘われている。これこそが、労働者の希望だ。動労千葉のように、法大闘争のように闘おう！闘う青年労働者〇さんに支援を！

やっつけられないぜ!

食糧高騰

ガソリン1リットル170円もやけに高いが、食料品にも大幅な値上がりの波が押し寄せている。スーパーも店頭では、食パン1袋220円、カップ麺1個160円、インスタントラーメン5袋入り498円、マヨネーズ700g入り520円と、ちよつと前までは信じられないような値段で売られている。賃金は上がらないのに、物価は上がり、おまけに厚生年金保険料や介護保険料は毎年、負担増が決まっているので、生活は苦しくなるばかりだ。世界中で食料を求めて労働者が決起している

が、このままでは暴動でも起こさなければやっつけられないぜ!

日本にも〈暴動〉が波及

世界各地で食料を求め、暴動やデモが起きている。日本でも6月13日から15日にかけて、大阪市西成区で、日雇い労働者を中心に約300名が決起し、西成警察署を囲んで、機動隊と3日間にあわつて激突した。

西成区に〈暴動〉状態が現出したのは1990年以後のこと。今回の決起は直接的に食料を求めたのたかいかではなく、飲食店でトラブルに巻き込まれた労働者が西成署で警察官によって首を絞めるなどの暴行を受けたことへの抗議行動を発端としている。

しかし、背景には世界恐慌型不況で、労働者の仕事が激減していること、賃金の低下、物価高による生活破壊がある。これに加えて、西成署が野宿労働者の路上死を放置することが度重なっていたことや、警察官の労働者に対する日常的な差別的な言動によって、労働者の不満が臨界点を越えたのだ。

エジプト、チュニジア、イタリ

ア、アフガニスタン、カンボジア、ハイチ、フィリピン、バングラデシュなど、世界の30カ国以上で労働者が〈暴動〉や大デモンストレーション、ゼネストに決起し、新自由主義的政策への〈反撃〉が開始されているが、それが日本にも波及したのだ。

イラク戦争こそ食糧危機の元凶

小麦、米、大豆、トウモロコシなどの主要穀物価格の上昇傾向はここ数年続いていたが、急激に上昇したのはここ1年のこと。食糧高騰を06年にオーストラリアが干ばつに見舞われたことがきっかけと主流マスコミがまことしやかに流布しているが、直接の原因は原油高であることは明白だ。

現代の農業は、石油ガブ飲み農業で、食物エネルギーカロリーを作り出すには、10カロリー分の化石燃料が必要になると言われている。肥料や農薬、大型農業機械、加工、輸送など、あらゆる局面で原油に大きく依存しているからだ。

食糧危機は穀物生産量の絶対的

な不足によるものではなく、原油高が先導したものだ。そして原油高は米帝のイラク戦争へのめり込みがもたらしたものである。

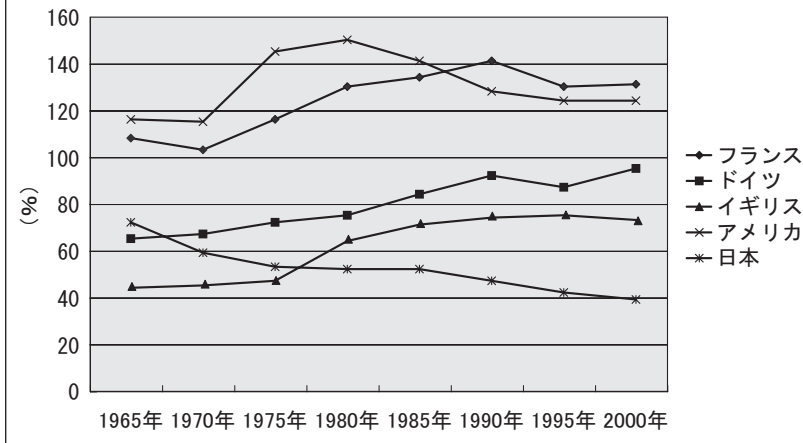
原油高によってバイオ燃料の拡大が叫ばれたことで、トウモロコシの増産をもち、小麦や大豆などの食用穀物の作付け面積を縮小させ、穀物の需給関係を逼迫させた。これに投機マネーが入り込んだが、相対的に小さい市場へのこのような乱入は、低所得国の労働者は食糧を買うことができなくなるような価格高騰を招いたのだ。

そして、食糧暴動が広がった。階級闘争の大地に火がついたのだ。

頼みの輸出国も輸出規制

昨年来、ロシアや中国、インドは食糧生産国だが、同時に著しい経済成長により自国の需要が急増している。こうした国々を中心に、昨年来、食糧の輸出規制を開始した。ロシアは小麦と大麦に、30%、40%の大幅な輸出税を導入、中国は小麦、米、トウモロコシ、大豆

G8主要国の食糧自給率の推移



など多品目に大幅な輸出税を導入、インド、エジプトは米と小麦の輸出禁止、ベトナム、カンボジア、インドネシアは米輸出を禁止した。
食糧暴動が拡大するのに驚いた国連は、「食料危機サミット」を

呼びかけた。6月3～5日、イタリアのローマで開かれた「食料サミット」の共同宣言では短期的政策として、

①支援国と国際金融機関は、食糧輸入国や低所得国への支援を適宜行う。

②世界貿易機関(WTO)加盟国はドーハ・ラウンドで途上国の食糧安全保障の改善に貢献する結果に到達するとの意思表明をする。

③食糧の国際的価格の不安定性の増大につながる制限的措置を最小限のものにする必要性を確認する。

中長期的政策として
①バイオ燃料の詳細な検討が必要。バイオ燃料技術、規則などに関する経験の交換が望ましい。

②食糧生産を強化、農業への投資を拡大し、資源を持続的に利用するためにあらゆる手段を講じる。(朝日新聞6月6日夕刊より、抜粋)。

国連は輸出規制の自粛を宣言に盛り込むことを目論んだが、食糧防衛に走って規制を行っている各国が反対し、有効な対策を宣言に

盛り込めなかった。

インフレや投機の問題と資源争奪戦はひとつながりの問題であった帝国主義的争闘は制御ができていない。

日本の食糧自給率の低下

07年8月10日、農水省は06年の日本の食糧自給率(カロリーベース)が13年ぶりに40%を割り、39%になったと発表した。40%を割ったのは米が大凶作だった1993年以来のこと、農業関係者は大きなショックを受けた。

93年といえば米を販売している量販店に長蛇の列ができ、テレビでタイ米のおいしい食べ方などが頻りに取り上げられた年である。米は現在、スーパーやコンビニ、ディスカウントショップまでさまざまなブランドのものが大量に出回っているけれども、日本の食糧自給率が下がり続けていることは疑えない。

グラフはG8主要国の食糧自給率(カロリーベース)の推移。グラフを見てもわかる通り、日帝以外のおもな主要国はほぼ右肩上がり、自給率が向上し、ほとんどを

自国の農作物でまかっている。

フランスやアメリカは食料輸出国である。イギリスは60年代から70年代にかけて、現在の日本並みの自給率に低迷していたが、80年代以降は、飛躍的に向上させた。唯一、日本だけが下がっているのだ。

これは日帝が貿易不均衡をフランスさせたために農業を犠牲にしてきたことを意味している。今日の日本での食料品の高騰は農業を切り捨ててきたつけを日本の労働者が払わされているのだ。

いよいよ世界は革命情勢

食糧危機の原因は生産国の輸出規制や投機マネーの流入もあるが、それは副次的なもので、最大の原因はイラク戦争である。

今日の食糧暴動やゼネストは、帝国主義戦争が内乱に転化した姿にほかならない。燎原の火は広がっていく。

この危機は、全世界のたたかう労働者と連帯し、世界革命を実現することによってのみ、解決される。(雷太)

ひめじよおん

―女性部から

被爆63周年「8・6」にむけて

女性部全国運営委員 森実智恵美

被爆63周年。

1999年から始まった「8・6ヒロシマ大行動」は今年で10回目を数えます。

全世界で連日ストライキや暴動がおこり、そのニュースに日々胸が高鳴ります。

資本主義が完全に行き詰まり、労働者の生きるための闘いが体制を根底から揺るがしています。労働者階級の団結の力で勝利する時代です。



2007年8・6ヒロシマ大行動

「8・6ヒロシマ大行動」実行委員会ではこの情勢の下、例年に増して熱い議論が行われています。私も全てとはいきませんが、可能なかぎり参加しています。

「時代が変わった。世界が激震している。これまでの10年間の地平をしっかりとふまえて、勝利の展望のある、8・6ヒロシマ大行動にしよう！さらなる飛躍と攻勢に打って出よう！」参加者の活発な討議はここから出発しました。本当に核と戦争を止める「8・6」にしたい！

戦争の問題、核問題は資本家と労働者階級、「支配と被支配」の問題である。核で世界を支配することを争っている資本家たちと闘うということ。核と戦争を止めることができるのは労働者。労働組合の闘いを中心として、職場で団結し、戦争協力を拒否する闘いである。―この確信が「たまたかう」
「8・6ヒロシマ大行動」の真骨頂だと思えます。

メーデーで、アメリカILWUが西海岸の港湾を封鎖し、イラクへの軍事物資の搬出をストライキで止め、それと連帯したイラク現地の港湾労働者の1時間のストラ

イクの闘いは私たちの心を揺さぶり、核と戦争を止める現実性を示してくれました。

5月30日の実行委員会の直前の28、29日には「サミット粉碎」「労働者・学生は団結しよう」と訴え闘う学生38人が法政大学で逮捕されました。実行委員会でも、とんでもない政治弾圧に対する怒りはもちろんですが、弾圧で団結を強化・拡大している学生の闘いが資本・国家権力にとつてすごい脅威になっていると話題になり、「8・6ヒロシマ大行動」を共に闘ってきた学生たちへの団結の気持ちを含めて檄文やカンパがそれぞれ寄せられました。

そして青年労働者の闘いが猛然と時代を切り開いています。自らの職場で資本と徹底的に対決し、既成の労働組合の弾圧や処分との闘いの中で団結をつくり出しています。戦争、貧困、改憲も資本主義、賃労働と資本の問題であることを鮮明にした実践です。

「8・6」の闘いは新自由主義との闘いでもあります。それは全世界の労働者共通のテーマです。労働者の団結やあらゆる社会的連帯を破壊する帝国主義に対して、全

世界の労働者・民衆の団結の力で闘う「8・6」です。

今、米国では抑止目的ではなく戦場で実際に使うことを目的とした核兵器の開発が計画され、核兵器を先制攻撃の手段として用いようとしています。また日本では宇宙基本法の制定に見られるように独自の核武装が追い求められています。

その存在と怒り・悲しみが帝国主義とは決して相容れない被爆者に本物の希望を示す「8・6」にしよう。それはやはり職場での実践です。「核を必要とする資本家たちと、被爆者の怒り、労働者・民衆は共存できないのです」
（8・6ヒロシマ大行動呼びかけ文より）
私自身が資本と非和解の闘いで職場に本物の団結をつくる。このことを別にして集会へのオルグだけが成り立つことはないと思います。8月6日は水曜日です。参加者は休みを取ることが闘いだと思えます。

職場で闘って8月6日、ヒロシマに集まって下さい。
各産別集会の成功を勝ち取り、11月労働者集会1万人を実現させましょう。

動労千葉労働学校で学ぼう！

5月17日に行われた労働学校（労働者学習センター）での受講生の感想を紹介します。この日の講義は「賃労働と資本」の2回目。

●労働の価値とか商品の価値というものについて、たとえば労働して生産にかかった分、商品の生産にかかった分、というような単純なものではないのだということがわかりました。

労働者学習センター第8期労働学校案内

■基礎編

7月19日（土）13:00～

◆労働者の生き方

◆講師 森尾 誠（社会問題研究家）

■実践編

8月23日（土）13:00～

◆改憲阻止闘争について

◆講師 高山 俊吉（弁護士）

憲法と人権の日弁連をめざす会代表。改憲と一体となって進む戦時司法確立攻撃と闘い、同時にそれに屈服する日弁連を激しく弾劾し、日弁連会長選挙にも立候補している。『裁判員制度はいらない』（講談社）

資本とは何か、ということでは、生産手段のことだけかと思つたのですが、生産関係ということも含めて資本だというのは新しい発見でした。今まで資本というと労働者の敵というイメージだったのが、実際はその中に労働者も取り込まれ形成しているということだったんです。「資本の力は労働者の力」という表現も出てきたのですが、まさにそういうことだと思つました。資本の中にいて物をつくり、その力となっている労働者を持つ力、これがあれば必ず世の中を変えることはできると思つていました。

「賃金制度の積極面」について知ることができたのもよかったです。思つました。すべてのものが商品となり、すべての労働者が労働力商品となることで、すべてが金銭の関係になったことは、とんでもないことだとばかり思つていたのですが、そのことで階級というものも明瞭になり、労働者が真実をつかみとる条件が生まれたということ、ものすごいことだと思つました。今の世の中も、あいま

なものがなくなり、革命情勢だということもつながつているように思えました。自分においても、階級性を理解するにあたって、現実に自分の生活をみて、おかしいなと思つたところから始まつているような気がしました。

●すべての生産物が商品となる背景に、共同体の解体があるというのが面白かった。生産関係、つまり人間と人間の関係がバラバラになつている、そうであるがゆえにすべてが「冷たい現金勘定」になるのだということ。

資本とは何か、それは生産関係であるということもよくわかりました。『賃労働と資本』は、これまでは狭い意味での経済の書というふう読んできた面はありましたが、今日、唯物史観の書であると感じました。

全体をとおして、『賃労働と資本』は革命の書だと強く実感した。最後の労働組合の記述で、労働者はどんなに犠牲を払つても組合のために闘うということを言い切り、生産関係そのものの変革を結

論として位置づけることに感動しました。

●賃金労働が「二重の自由」を前提にしていることが資本主義社会の仕組みを理解するうえでストンと胸に落ちる内容だった。

1970年代に就職し、高度成長期といわれる時代に賃金労働者として働いていた頃、資本主義の構造を自分なりに理解しようとしても、なかなか実感として分らなかった。「資本家はものすごくもうけていて、それに比べて私たち労働者は本当に搾取されている」と、そのような受け売りの考えはあったが、労働者階級と資本家の潜在的な非和解的構造が理解できていなかったと思う。

今の時代、この2008年において、資本主義の仕組みがむき出しになり、『賃労働と資本』の内容が現実を通してはつきりとかみ取れるようになったと思う。マルクスの労働貯蓄制の批判も、年金や健康保険の現状が物語っていて、はつきりと資本の「だまし」が表れてきている。

過労自殺81人と最悪

過労が原因でうつ病などの精神疾患にかかり自殺(未遂を含む)として07年度に労災認定された人が前年度を15人上回る81人と、2年連続で過去最悪だったことが23日、厚生労働省のまとめで分かった。

自殺3万人超10年連続
 全国で昨年1年間に自殺した人の数は3万人を超える見通しであることが27日、分かった。各都道府県警が調べた概数を共同通信が集計した。世界保健機構(WHO)の統計では、日本の自殺率(04年)は24・0で世界で9位。G8ではロシア(34・3)に次いで高い。他の主要国はフランスが18・0、ドイツ13・0、カナダ11・6、米11・0。

いじめ相談急増
 解雇やいじめなど労働者と企業側とのトラブルについて、全国の労働局の「個別労働紛争解決制度」に寄せられた相談が07年度は約19万7千件と前年度より5・5%増えて過去最多となったことが23日、厚生労働省の集計で分かった。

職場でのいじめに関する相談が急増した。

添乗員も「残業代を」
 阪急トラベルサポート(大阪市)に登録している派遣添乗員の女性23日、細かい指示を受けてツアーに添乗しているのに、会社の指揮・監督が及ばないため所定労働時間働いたとみならず「事業場外みなし労働制」を適用し、残業代を支給しないのは不当だとして東京地裁に労働裁判を申し立てた。

元教諭、2審も罰金
 東京都立板橋高校の卒業式で、君が代斉唱に反対し保護者に着席を呼びかけて式典を混乱させたとして威力業務妨害罪に問われた元教諭藤田勝久被告(67)の控訴審判決で、東京高裁は29日、罰金20万円(求刑懲役8月)とした1審東京地裁判決を支持、被告側の控訴を棄却した。被告側は即日原告した。

4月失業率4%に悪化
 総務省が30日発表した4月の完全失業率は、前月より0・2ポイント悪化の4・0%となり、2カ月ぶりに悪化した。3%台後半で推移していた失業率が4%台になったのは昨年の9月以来7カ月ぶり。保険料、低所得ほど負担増

グッドウィル、二重派遣補助
 日雇い派遣大手グットウィルが派遣した労働者を、港湾関連会社の東和リースが二重派遣していたとされる事件で、警視庁は3日、グットウィルの課長らを職業安定法違反補助などの疑いで逮捕した。

保険料、所得が低いほど高額に
 75歳以上を対象にした後期高齢者医療制度の導入で、国民健康保険から移行した人たちの保険料は、所得が低いほど高額になった割合が多いことが4日、厚生労働省の実態調査で分かった。政府は従来「一般的に低所得者で負担が減り、高所得者は負担が増える」と説明してきたが、実態は逆だった。

正規・非正規の時給格差
 正社員と非正社員の時給格差は20代前半で約1・3倍だが、50代では約2・5倍に広がる。第一生命経済研究所が、厚生労働省の賃金構造基本統計調査(07年)をもとにした試算結果が4日明らかになった。

橋下知事「大阪維新」公表
 大阪府の橋下徹知事は5日、1100億円の財政再建案「大阪維新プログラム」を公表した。人件費は、月額基本給を16%4%、平均約12%カットし総額345億円を削減する。私学助成や市町村への補助金など事業費は320億円を削減する。

公務員改革法が成立
 国家公務員制度改革基本法が6日午前、参院本会議で可決、成立した。内閣による省庁幹部人事の一元管理などを柱とし、今後5年間で取り組む制度改革の内容や手順を規定したプログラム法。政府は「国家公務員制度改革推進本部(本部長・福田康夫首相)を月内に設置する。給与水準などの労働条件を労使で決める団体協約締結権を付与する公務員の対象拡大については明記はせず、「自立的労使関係制度を措置する」という表現をとった。

かになった。20代前半の正社員の時給1359円に対し、派遣などフルタイムで働く非正社員は1115円。50代前半では正社員は2996円まで上がるが、フルタイムの非正社員は1213円。

沖縄県議選、与党が過半数割れ

任期満了に伴う沖縄県議選は、8日投票、即日開票され、仲井真弘多知事を支える自民、公明両党など与党側が過半数を割り込んだ。選挙結果は、定数48に対し中立を含む野党側が26議席、与党側は22議席にとどまった。

75歳以上、10人に1人

政府は20日午前の閣議で08年版「高齢社会白書」を決定した。75歳以上の「後期高齢者」は07年10月1日現在で1270万人と前年より54万人増加。総人口に占める割合は9・9%と0・4ポイント上昇した。国民の10人に1人が後期高齢者となり「本格的な高齢化社会」に突入したとしている。

教職員の定数2万5千人増

政府が初めてつくる教育振興基本計画に向けた文部科学省の原案の概要がわかった。08～12年度に教職員を2万5千人程度増やし、国内総生産(GDP)に占める教育への公的支出を今後10年で現在の3・5%から5・0%を上回る水準を目指す。

トヨタQC活動に残業代

トヨタ自動車は、従業員のQC(品質管理)サークル活動を6月

から業務と認め、原則として残業代を支払う。他の大手企業は社員

の「自主的な活動」か「業務」かを巡って対応が分かれているが、自主的な活動と位置づけている企業でも、実質的に残業代を支払うケースが多いようだ。

原油高、企業を直撃

日本経済の先行き懸念が高まってきた。歯止めのかからない原油価格の値上がり企業が収益を圧迫したり、家計の購買力を低下させたりして、設備投資や個人消費の行方に不安の影を及ぼしている。景気の下支えを期待される住宅投資の見通しも厳しい。頼もしいリード役は見当たらず、経済成長の鈍化は避けられそうにない。

日雇い派遣原則自粛

日本人材派遣協会は28日、製造業などでの日雇い派遣の原則禁止を柱とする「自主ルール」を発表した。大手のグッドウィルなどで違法行為が相次ぐ中、ワーキングプア(働く貧困層)の温床と批判されている日雇い派遣を自粛することで、業界全体への不信感を取り除くのが狙いだ。

日雇い派遣、原則禁止の方針

ワーキングプア(働く貧困層)

の温床とされる日雇い派遣労働をめぐり、舛添厚生労働相が13日、日雇い派遣を原則禁止する方針を示した。秋の臨時国会に労働者派遣法の改正案を提出する方向。

「公共」収益「両立厳しく

日本郵政グループが30日発表した07年度(07年10月～08年3月)連結決算で、経常利益が昨年9月時点の計画を下回ったのは、かんぽ生命保険と郵便局会社の不振が足を引っ張ったためだ。

郵便局運営、企業に委託

日本郵政グループは過疎地の郵便局網を維持するため、民間企業への郵便局運営の委託を始める。第一弾として警備最大のセコム

に一部の簡易郵便局の運営を任せると。セコムが業務を実際に受託するのは、企業や家庭に不審者が侵入した場合に駆けつける警備員などの待機拠点。

消費税9・5～18%の試算

政府の社会保障国民会議は19日、基礎年金の財源をすべて税で賄った場合、09年度に9・5～18%まで消費税を引き上げる必要があるとの試算を公表した。

「消費税率10%超が必要」

日本経団連の御手洗富士夫会長

は19日の記者会見で、自らが推す年金の全額税方式や医療・介護制度の公費負担増が実現した場合について「超長期的には消費税率が10%に収まるとは思っていない」との見解を示した。

「骨太の方針08」素案明らかに

政府が6月末決定する「骨太の方針08」の素案の概要が明らかになった。社会保障費の伸びを5年間で1・1兆円抑え、公共事業費を毎年1～3%ずつ削るといった分野ごとの歳出削減目標を決めた。

21世紀版前川レポート骨子案

日本経済の構造転換の方向性を示す「21世紀版前川レポート」の骨子案が13日、経済財政諮問会議の専門調査会で示された。日本が成長を続けるためには、(社会保障など、現在のゆがみの原因を改革の行きすぎに求める声)が、(さらなる改革を遅らせている)とし、(海外からより多くの人材や資本を国内に引き入れる「開国」によって経済・社会の活力を増すこと)、(規制緩和を始めとする包括的で素早い変革への戦略的後押し(ビッグプッシュ)が重要だ)と指摘している。

船出した7被告—裁判に集会に東奔西走 国労本部打倒へ全国キャラバンを成功させよう



公判後の被告団と弁護団の会議(6月20日)

88回公判を(東京地裁刑事第10部。植村稔裁判長)闘い抜き、全国キャラバンに打って出ている。21日には福島と宮城で集会を成功させた。2月に旧弁護団を解任し、前回から松崎被告との裁判分離を実現した7被告は、「晴れ晴れとした気持ちで」(羽廣被告の意見)進撃を続けている。権力・資本・国労本部を倒す決意を改めて固めた。解雇撤回を投げ捨て、動労千葉を排除し、自民党権力への土下座だけを繰り返す「4者・4団体」に屈した松崎とその弁護団との決別は、労働者が本来持つ階級的力を無限に発展させる端緒となった。長く染みついている裁判闘争での弁護士や学者への依存的傾向を、自らの力で振り切ったことで、これまでと全く違う根元的力が、あらゆる面から発揮され始めた。退路を断ち、主体として踊り出る決断の強さだ。

「晴れ晴れとした気持ち」で 船出

23日の裁判は判事の交代に伴う更新意見で、羽廣憲被告と原田隆司被告、山本志都弁護士と西村正

治弁護人が意見を述べた。羽廣さんは冒頭、「私は本日の公判を、晴れ晴れとした気持ちで迎えることができました。松崎被告人との弁論分離を実現し、松崎被告人を擁護する旧弁護団との決別をかけた私たちは、2002年5月27日に行われたピラマキ・説得活動が、国鉄闘争の勝利と階級的労働運動の復権にとって絶対に必要な闘いであったことを、一点の曇りもなく明らかにすることのできる地平に立っています」と切り出した。

さらに、国労本部らの4者・4団体路線を賛美する松崎を怒りを込めて弾劾した。7被告の弁護団解任に対し、松崎は「革共同7被告の暴挙」と非難する声明を出した。「私は革共同を辞めた」と権力に命乞いもした。1度や2度の敵対ではない。羽廣さんは「松崎被告人と同じ法廷で裁判を闘うことはできない」と断言した。

また、「被告人の要請を、旧弁護団が受け入れなかったため」と旧弁護団解任の理由を述べ、「前回公判から、私たちは松崎との弁論分離をかちとり、新しい裁判闘争に入りました。私たちの主張を

4月26日の尼崎現地闘争と5月23日の再開第1回裁判で、新たな

船出をした国労5・27臨大闘争弾圧の7被告は、6月20日に第

曇らせゆがめる妨害物はきれいさっぱり排除されました」と断言した。

さらに羽廣さんは、闘争団として20年以上にわたり解雇撤回闘争を闘いぬいてきた経緯を語り、鉄建公団訴訟原告の一人として、「4者・4団体路線を打ち破り、1047名解雇撤回闘争を正しい道に立ち返らせる」と固い決意を表明した。

労働者を獄につなぐ国家を解体せよ

原田さんは、5・27臨大闘争弾圧を弾劾して、「私たちが獄中につながるのであれば、『労働者を獄中につなぐ国家こそを、労働者の力で解体せよ。獄中につながることを恐れるな。労働者よ立ち上げろ』と獄中に連れ戻されても、呼びかけなければなりません」と宣言した。また、松崎被告との弁論分離に触れて、「国労本部こそ、国家権力と並んで、私たちがこの裁判で徹底弾劾しなければならぬ敵にほかなりません。松崎被告人は、その認識さえ私たちが共有できなくなってしまうので

すから、裁判を分離したのは当然です」と言い切った。

原田さんは、人材活用センターに収容されて以来、配属差別と闘ってきた経過を語り、2000年4党合意以降、国労執行部が配属差別との闘いも投げ捨てたことを弾劾し、5・27臨大当日のピラマキ・説得活動が主体的決起であることを明らかにした。

国労共闘の闘いの歴史を全面展開

山本弁護人は、5・27臨大に至る国労本部の裏切りの過程を全面的に説き明かした。国鉄分割・民営化以来、国鉄当局やJR資本に対して、職場の団結を基礎に真正面から闘わなかつた国労本部の路線的な誤りが、闘争団の統制処分という歴史的暴挙にまで行き着いたことを明らかにした。西村弁護人は、国鉄分割・民営化絶対反対派としての国労共闘が、分割・民営化以来、動労千葉との連帯を追求しつつ闘いぬいてきた歴史を語り、国労共闘が4党合意と激しく対決してきたからこそ、国家権力と国労本部による不当な政治弾圧

が強行されたことを暴いた。

7被告支持掲げた選挙闘争と並行し

国労は7月30、31日に定期全国大会を開く。本部を始めとする「4者・4団体」は「国鉄闘争の終結」を公然と打ち出した。鉄建公団訴訟（第一次）の加藤晋介弁護士は、「年内、年度内が賞味期限」と言い放った。全世界で新自由主義とサミットへの怒りが爆発し、ゼネスト、暴動などが激発している時に、これと全く関係なしに「金銭和解」を求めて土下座を繰り返している。組織的にも根絶される道を転げ落ちていく。協会・革同と

議員選挙闘争を激しく闘い抜いている。それと並行しながら、被告団を招いた国鉄集会在、全国で開かれていく。

被告団は4・26尼崎闘争を出陣式とし、呼ばれば何処へでも駆けつける、集会での話だけでなくピラマキもオルグも何でもやる、その方が楽しいという意気込みで、全国キャラバンに打って出た。22年に及んだ巨大な国鉄闘争が自己解体する今こそ、底力を発揮する時だ。動労千葉と共に、勝利の路線と闘いの火柱を全国にブチあげるときだ。

また、松崎裁判には脱落・反動分子が勢揃いし醜悪な姿をさらしている。国鉄闘争に敵対し続けてきた輩どもだ。このような包囲を打ち破って、闘いの火柱が次々と打ち立てられている。国鉄闘争22年の怒りが今まさに爆発するときを迎えている。

その導火線が5・27である。国労共闘は、7被告の支持と6・29サミット粉砕渋谷デモを掲げ、代

に広島、米子、東京各地、福岡で予定されている。4・26尼崎闘争のDVDの上映と、被告、そして地元の国鉄労働者の訴えが共感を呼んでいる。準備段階での問い合わせも、続々と来ている。国労NIPPPO（羽廣さん）と動労千葉の物資販売を促進しつつ、全国50カ所を目ざして、共に突き進もう。

一人の涙にストライキ！ それが俺たちの魂じゃん

希望は団結！反乱起こそうストライキ！

鈴木 光年（新仙台郵便局・第三集配課） rtshq775@yahoo.co.jp

●一ヶ月での雇い止めは認めない！ 最終日にストライキ！ 知らない仲間が立ち上がる！ 「処分よりも義理人情」に感動した！

俺は4月28日、三集課長に呼び出され「雇い止め」を通告された（別紙参照）。「俺は生きちゃいけないのか」「何のために地図を覚え、走ったんだ」涙が止まらなかった。ペットボトルじゃないんだぞ。簡単に捨てられてたまるかよ。俺が引いたらこれが常識になってしまう。だから30日、職場の仲間と声を上げた。

30日、朝、職場の人たち全員に、ビラ（別紙）を渡し、朝礼で課長を追及し、大騒ぎした。

「理由を説明しろ」「雇い止めは絶対認められない。撤回しろ」「俺たちを人間扱いしていないんじゃないのか？」「俺のようにみんなをいつでも首切るつもりか」「お前なんて大したことないんだ、俺たちがストライキしたら、言うことを聞くしかないんだぞ」。課長も集まってきた管理職も誰も答えられない。課長がただひたすら「理由はいったら『こちらの判断だ』」と繰り返すのみだ。そんなことに黙って従えるか。

周りの人たちも「何で彼が雇い止めなんだ」「ようやく一人前になってきたところじゃないか。ふざけんな」と一

緒に課長を追及。俺を止めるために襲いかかる総務課長を、話したこともない人が腕をつかんで阻止したりと、ものすごい事態になった。気持ちが通じてうれしかった。労働者は一つなんだと分かった。

俺は「抗議して今日はストライキする」と宣言。正社員の仲間も「こんな状況で働けるか。俺もストだ」と欠勤届けを出した。処分されても一緒に闘うという覚悟だ。俺の班からは「まかしてけ！がんばれ」と檄が飛んだ。肩を叩いて「負けるなよ」と力づけてくれる人がいた。あったかい。また泣きそうになった。

一日中、追及行動をし、夕方に職場集会を開催した。管理職の監視に負けずに、多くの労働者が集まってきた。

「あいつらまたやりやがった」「俺も本当は追及に付き合いたかったんだ」「友達も昔、前日に言われ雇い止めにされた」「支店長の口癖は『やめろ』『やめさせろ』だ。どうかしている。現場は怒りに満ちている。ものすごい団結ができるし、団結すれば変えられると実感した。

●泣き寝入りはもうさせない！ 門前闘争は始める！

5月1日から、門前闘争を始めた。ビラをまき、マイク演説をして「使い捨ての職場を変えよう！」「反乱起こそう！ストライキをしよう」と訴えている。職場や周りの友達と一緒にプラカードを立てくれ、他の郵便局の人も話を聞いて駆けつけてくれている。バイクで出勤する仲間、配達に出かける仲間が「がんばれよ」「負けるなよ」と声をかけてくれてすごい感激する。楽しすぎる。

管理職が勢揃いして監視しているが、あいつらは反乱が起ることに恐怖しているんだ。びびっているんだ。なぜならば、職場を動かしているのは俺たち労働者だからだ。みんなで団結して一斉にストライキでもすれば、管理職はあわてふためいて俺たちの言うことを聞くしかないからだ。一人の首切りだってできないし、支店長だって追い出せるんだ！



●人のクビ切って「かけがえのない存在」とは何様だ？時給アップでごまかすな！

俺たちの闘いは当局を追い詰めている。あせった当局は、5月19日の朝礼の場で「契約社員の時給を50円アップします。契約社員はかけがえのない存在です」と発言した。笑っちゃうよ、なんだこの上から目線。ハガキ1枚の涙金で「かけがえのない存在」とは、恩着せがましいにもほどがある。もっと我慢して働けとせかしているんだ。こいつらは「かけがえのない」と言った同じ口で言うんだよね「来月から来なくていい」ってさ。本当に「かけがえのない」と思っているのなら、非正規のみんなを正社員にしたらどうなのか？ どうして支店長は「かけがえのない」俺を迎えにこないのか？！ 「明日からあっちの班へ行って

くれ」「〇〇の穴埋めに深夜勤をしてくれ」って、いつもこっちの気持ち無視して命令してるじゃないか。ようするに、命令ひとつ銭金いくらで動かして、いつでも使い捨てにできる「かけがえのない存在」だってことじゃないか。

労働者をなめるな。当局の都合で動かされてたまるか！

俺たちには俺たちの都合がある。心がある。

なぜ時給を上げるのか？ なぜ「雇い止め」で脅すのか？

民営郵政が破綻しているからだ。反乱が起こることにびびっているんだ。これはチャンスだ。処分を恐れず闘ったら、そこに団結ができる。団結すれば必ず勝てる。

●パイプ作りよりも大切なのは、となりの仲間だろ！ 組合は闘うためにある！

俺が今一番むかっているのは、職場の組合支部長だ。相談に行ったら「契約満了だろ」「組合員でもないのに部屋入るな」って切れてきた。泣き寝入りを進めてどうするんだよ。支店長と飲むことばかり考えて、パイプつくって自分だけ生き残ろうとする。こういう奴が、現場の組合には生産性向上で会社に貢献しろと言っているんだ。会社に貢献して俺たちが生きられるわけないだろ。秋葉原の事件が物語っているじゃないか。毎日まじめに車の塗装の点検作業を行っていても、たった一言で解雇。アパートまで叩き出された。彼は掲示板に書いた。「それでも、人が足りないから来いと電話が来る。おれが必要だからじゃなくて人が足りないから。誰がいくかよ」「友達が欲しい、恋人が欲しい」

これが生きた人間に対する仕打ちか！ 青年からすべて

を奪い取り、そうやって搾取した金でトヨタは2兆円の経常利益をあげ、資本家連中が笑っているんだ。こういう奴らとグルになっている労組執行部こそ、過労死や事故の最大の原因じゃないか。こいつらが秋葉原で7人殺したんだ。ふざけるな。腐った執行部は現場の団結でぶっとぼそう。

なんで俺たち労働者が、隣の仲間と生存競争をしたり、泣き寝入りを見送らねばいけないのか。ペットボトルのように簡単に捨てられたり、誰にも知られずにたった一人で死んでいく道を選ばされているのか。俺たちはそんなにちっぽけな存在なのか？ 絶対違う。俺たち労働者が社会を動かしているんだ。みんな「かけがえのない存在」じゃないか。みんなもうバラバラになるのはイヤなんだ。団結したいんだよ。ストライキがしたいんだ。一つになって反撃を開始しよう！ ストライキのできる労働組合に変えよう！

●常識をひっくりかえす団結づくりをしよう！ 郵便局から革命起こそう！

俺は今回の件で痛いほど分かった。俺たち労働者と資本家連中とは共存できないんだということ。そして隣の労働者がどれだけあったかくて「かけがえのない存在」なのかということ。それがハッキリした。

世界は革命を求めている。俺も革命をしたい！

世界中で巻き起こるストライキ、食糧暴動は、俺たちの闘いと一体なんだ。みんな生きるために本当の団結づくりを始めている。

戦争当事国のアメリカとイラクの港湾労働組合と一緒にストライキをしている。これが労働者の力だ。労働者に国境はない。戦争だって止められる。俺たちはすごい、自信をもっていいんだ。俺たち労働者の団結こそ希望だ。サミットなんて幻想に過ぎない。資本家のプログラムを労働者のプログラムで塗り変える時代がやってきたということじゃないか。

その中で、民営化と闘う俺たち郵便労働者は、決定的な位置を占めている。破綻した民営郵政を潰したとき、この社会が変わるんだ。革命なんだ。処分を恐れない団結づくりを一緒にやろう。絶対できる。



5月1日、アメリカのILWU（国際港湾倉庫労働組合）が西海岸の29の全港湾をストライキで封鎖し、米からの軍需物資輸送を阻止。それに連帯して、イラクGUPWI（イラク港湾一般労働組合）もイラク最大の港ウム・カスルをストで封鎖、イラクからの石油搬出を阻止するという画歴史的な闘いが実現した。これが労働者の力だ。

被爆63周年 08年8・6広島－8・9長崎反戦反核闘争へ

8・6広島

- 8・5 労組産別交流集会
8/5(火) 午後～ 広島市東区民文化センター
- 8・5 全国青年労働者交流集会 in HIROSHIMA
8/5(火) 夕方～ 広島市東区民文化センター
- 8・6 祈念式典糾弾デモ
8/6(水) 7:00 東千田公園集合(日赤原爆病院前・広島大学跡地)
【主 催】8・6広島－8・9長崎反戦反核闘争全国統一実行委員会、全国被爆者青年同盟
- 8・6 ヒロシマ大行動
世界の労働者・民衆の団結で核と戦争をなくそう！ 被爆63周年 戦争をとめよう！
8・6ヒロシマ大行動
【サブスローガン】アジア侵略、ヒロシマ・ナガサキ・オキナワをくり返すな！ 憲法改悪
阻止－ヒロシマの力で！
【日 時】2008年8月6日(水) 12:30～17:00
【場 所】広島県立総合体育館小アリーナ
【内 容】集会とデモ行進 12:30～15:00 / 集会 15:00～17:00 / デモ行進(平和公園解散)
【賛同金】個人一口1000円 団体一口3000円(二口以上の方には参加券1枚をお送りします)
〔郵便振替口座〕01360-1-62222 8・6ヒロシマ大行動
【主 催】8・6ヒロシマ大行動実行委員会(事務局長 平岡誠)
【呼びかけ発起人】
北西允／広島大学名誉教授 栗原君子／元参議院議員
平岡誠／三次市議、8・6ヒロシマ大行動事務局長
【事務局】〒730-0016 広島市中区鞆町14-3-303 TEL&FAX:082-221-7631
E-mail:hiro-100(at)cronos.ocn.ne.jp
- 8・7 平和資料館見学

8・9長崎

- 8・8 被爆63周年 8・8長崎反戦反核労働者集会
8/8(金) 18:00～
【スローガン】日米労働者の団結で、核と戦争を廃絶しよう！ 格差と貧困の社会を倒そう！
【場 所】長崎県勤労福祉会館4階 第2第3中会議室
【内 容】アーリーン・イノウエ(ロサンゼルス統一教員組合、CAMS代表)「教え子を戦場には送らない！」
藤田祐幸(元慶応大学教授)「迎撃ミサイル配備と日本の核武装」
【主 催】8・6広島－8・9長崎反戦反核闘争全国統一実行委員会
【連絡先】東京都千代田区三崎町2-17-8 皆川ビル301 編集工房「朔」内
長崎市油屋町1-19-201 油屋町市場ビル201(菊地)
TEL&FAX:095-826-7812 E-mail:aw_nagasaki@yahoo.co.jp
- 8・9 祈念式典糾弾デモ
8/9(土) 7:00 朝鮮人被爆者追悼集会
9:30～ 平和公園へのデモ

● 「自治労の力で革命やろう」
— 中央委員会でする！ —

自治労柏現業労組 被除名者
綿貫 透

「民営化絶対反対か否か」「勤労千葉とともに闘うのか否か」——この闘いによって2年前に除名を勝ち取りました——私のアジテーションの第1声です。これは別に大げさなことではなく、これまでの闘いそのものです。

5月29～30日に石川県・輪島で行われた、自治労中央委員会は、自治労が民営化を認めて組織を解散することで、権力に存在を認めてもらおうという「三単産統合」や勤務評定の導入などの是非をめぐる重大なものになりました。

私は自分の組合の腕章をつけ、名前を言い、「自治労の力で革命やろう」「うちらと一緒に団結しよう」とがんと訴えました。

居酒屋タクツー



ちょうどこの日、法政大で大弾圧があったことを訴えるなかで、「自治労本部は闘う労働者を当局と一緒に弾圧している。青年労働者の皆さん、今日の中央委員会を皮切りに職場で組合で反乱を起こそう」と、全員が「織田君」になりかわって、自治労本部との非和解性を訴えた。そうしたら、その場の雰囲気はがらりと変わり、1日目の終わりには駅頭街宣のよ

うに、足をとめて私たちの訴えに聞き入る人が続出しました。

できるだけ組合員と対話したかったので、「警備係」の地元の青年に話しかけ、現業の話を行いました。職場の話から組合の話になって、最後は「あなたの発言は心に響き渡りました」と言ってくれました。片や、私を組合から除名した弾圧系役員は苦虫を噛み潰したように目もあわせずに、団子になって逃げ去ったのです。

私の職場ではここ最近、議員や現場と関係のない上役の圧力によって職場を引く掻き回されることが多くなり、仲間が怒りはじめているところでした。年々増える仕事量や民営化の圧力などで職場がギスギスすることが多くなってきました。あるとき、私が管理職に仕事のことで文句を言ったら、

職場での闘いとサミット決戦

「アジテーションがよかった」といわれる時は、目の前の仲間をほんとうに獲得したいと確信しているときです。そのとき、自分の言葉も自然になるのだと思います。そうでないときは、どうしても説明口調になってしまうものです。実際に職場闘争とサミット決戦は一体のもので、今回の中央委員会への参加はこの数年間の職場での闘いがあったはじめて実現したものです。

私の職場ではここ最近、議員や現場と関係のない上役の圧力によって職場を引く掻き回されることが多くなり、仲間が怒りはじめているところでした。年々増える仕事量や民営化の圧力などで職場がギスギスすることが多くなってきました。あるとき、私が管理職に仕事のことで文句を言ったら、

「民営化をすすめる資本・当局とは非和解なんだ」「世界中の労働者が団結すれば資本はいらなんだ」という展望を示すチャンス到来。これまでの闘いや6・29集会が勝利の展望を示すことを現場の中で訴えています。隣にいる仲間との団結したい。ここが民営化・団結破壊と対決する最前線ですから。

同時にこの間、本庁前や柏現業の「全体職場委員会」の会場前でもビラまきを行い、6・29への結集と団結を訴えてきました。

職場の全員が発言して、1時間あまり管理職を追及することが始まっています。むしろこちらのほうが怒りが足りないくらいです。他方で、「納得できないが、決まってしまった以上業務命令はやらな」と「とりあえず、管理職や体制内労組に現場の意見を言ってもええればいい」という「現状」をいかにのりこえていくか？

「民営化をすすめる資本・当局とは非和解なんだ」「世界中の労働者が団結すれば資本はいらなんだ」という展望を示すチャンス到来。これまでの闘いや6・29集会が勝利の展望を示すことを現場の中で訴えています。隣にいる仲間との団結したい。ここが民営化・団結破壊と対決する最前線ですから。

同時にこの間、本庁前や柏現業の「全体職場委員会」の会場前でもビラまきを行い、6・29への結集と団結を訴えてきました。

今回の中央委員会は私にとっても交流センターにとっても「サミット決戦」——8月自治労千葉大会——11月労働者集会への号砲へと押し上げました。弾圧は最大のチャンス！ 職場の団結の拡大で決着をつけます。



民営化絶対反対！自治労本部打倒！

5・29～30 輪島

石川県輪島市で自治労第136回中央委員会が開催。自治体労働者部会は、サミット決戦、人事評価制度拒否、地公3単産統合反対を掲げて登場。「法大38人逮捕」の報に怒りを爆発させ、団結して革命をやろうと訴えた。



「生産性運動」掲げた中央を弾劾！

6・18 札幌

18日から20日、札幌で、全通と全郵政の組織統合後、最初のJP労組大会が行われた。闘う全通労働者は、「生産性運動」を掲げて産業報国会化した労組中央を弾劾。サミット戒厳令を突き破る会場包囲のデモを貫徹した。



サミット粉碎で新たな沖縄闘争を！

6・21 東京

東京・阿佐ヶ谷の杉並産業商工会館で「沖縄一本土をむすぶ6・21労働者集会」が105人の結集で開催された。主催は沖縄民権の会と沖縄一本土をむすぶ労働組合連絡会の呼びかけによる集会実行委員会。